

# 西多摩医師会報

第190号 昭和63年10月



瑞穂町 保健センター

## 目 次

	頁		頁
1. 西多摩地区救急業務連絡協議会の 設立總會及び発会式について 宮川栄次 … 2		6. 文芸	
2. 西多摩地域保健医療推進 協議会開催さる …… 3		スペインに学ぶ 内山 大 …… 8	
3. 西多摩地域保健医療推進協議会雑感 西村邦康 … 4		是空 平林信隆 …… 10	
4. 正副会長経験者と 現執行部との懇談会 大嶽栄二 … 5		7. 市町村医師会紹介シリーズ 瑞穂町医師会 大嶽栄二 …… 12	
5. 理事会報告 総務部 …… 6		8. 百舌の高鳴き 小泉新策 …… 13	
		9. 哀悼 故進藤利定先生 小泉新策 … 14	
		10. お知らせ …… 15	
		11. 医師会日誌 …… 16	
		12. あとがき …… 17	

## 西多摩地区救急業務連絡協議会の設立総会及び発会式について

9月9日「救急の日」に西多摩地区救急業務連絡協議会の設立総会及び発会式が西多摩医師会館において、開かれました。

出席者は、来賓として東京消防庁の望月第八方面本部長、同庁救急部の武井主幹の2名をお招きし、西村西多摩医師会長、西多摩地区四消防署長をはじめ、同地区間内の三保健所長四消防署警防課長、さらに会員として会の主旨に賛同されて、入会された各医療施設の管理者20名(当日都合により欠席された方を含めて会員は30名)、このほか事務局担当の消防署救急係長、救急隊長8名を含めて、合計42名が出席しました。

まず最初に設立総会が、高木病院の高木先生の司会により開かれました。議案の討議のため議長の選出が行われ、会員の賛成を得て青梅市立総合病院の星院長先生が選ばれ、議事の進行が行われました。議案は、期約案・役員選出、予算案及び事業計画案の順に検討され、規約案については原案どおりとし、(規約案は会報8月号に登載)会費も月額1,000円と議決されました。役員は会長を大聖病院の宮川、副会長を高木病院の高木院長先生、監事2名は阿伎留病院の菅井院長先生、奥多摩病院の大嶋院長先生がそれぞれ満場一致で選出されました。予算案については、原案が会費24名分の会費で算出したものでありましたが、会員が30名に増加しているので本年度の事業計画による予算執行で残金が出た場合は、翌年度へ繰越し金として計上していきたいということで可決されました。

昭和62年度事業計画案は、年度の途中でもありますので今年の11月に救急業務連絡会1回、翌年2月に救急研究会1回の計2回の会を開き、他の行事は行わないことで可決されました。なお、来年度は規約第3条に定める「会の事業」を積極的に行うことが付議されました。

つぎに発会式が、引続き高木先生の司会で進められました。最初、本会の会長に就任した宮川から顧問の委嘱状が西村医師会長、足

立青梅消防署長、大井福生消防署長、大木秋川消防署長、高橋奥多摩消防署長の5名に贈られ、また参与委嘱状が唐木青梅保健所長、木下福生保健所長、岩城五日市保健所長さらに青梅、福生、秋川、奥多摩の消防署警防課長の7名に贈られました。この後、宮川会長から本会の今後の運営に当たっての所信表明の挨拶があり、つぎに西村医師会長、大井福生消防署長、木下福生保健所長の役員挨拶があり、来賓祝辞は望月第八消防方面本部長からいただきました。

発会式に引続き、懇親会の司会も高木先生にお願ひし、東京消防庁救急部の武井主幹から来賓祝辞をいただいた後、唐木青梅保健所長の乾杯の音頭で杯をあげました。宴の途中、目白第二病院辻院長先生や福生病院大久保院長先生などからスピーチをいただいたりして、終始会場は和やかな雰囲気の中に、阿伎留病院菅井院長先生の中へで散会となりました。

尚今後、本会に賛同され、入会を希望される方は医師会事務局までお知らせ下さい。

(文責 宮川栄次)



西多摩地区救急業務連絡協議会

会 員 名 簿

(順不同)

	名 称	氏 名
会 長	大 聖 病 院	宮 川 栄 次
副 会 長	高 木 病 院	高 木 直
監 事	公 立 阿 伎 留 病 院	菅 井 豊 久
監 事	町 立 奥 多 摩 病 院	大 嶋 大 和
会 員	青 梅 市 立 総 合 病 院	星 和 夫
	大 門 診 療 所	萩 森 正 紀
	沢 井 診 療 所	野 村 有 信
	青 梅 厚 生 病 院	唐 橋 善 雄
	足 立 医 院	足 立 卓 三
	目 白 第 二 病 院	辻 之 英
	福 生 病 院	大 久 保 憲 二
	小 川 病 院	高 沢 勳
	西 多 摩 病 院	佐 藤 守 雄
	長 岡 診 療 所	羽 田 野 洋 夫
	福 生 ク リ ニ ッ ク	玉 木 一 宏

会 員	松 原 内 科 医 院	松 原 貞 一
	内 山 耳 鼻 咽 喉 科 医 院	内 山 大
	稲 垣 整 形 外 科	稲 垣 壮 太 郎
	羽 村 診 療 所	福 島 大 寿
	渡 辺 医 院	渡 辺 良 友
	米 谷 内 科 医 院	米 谷 豊 光
	真 鍋 眼 科 医 院	真 鍋 勉
	大 久 野 病 院	進 藤 淳
	栗 原 内 科 整 形 外 科 医 院	栗 原 琢 磨
	横 田 小 児 科 医 院	横 田 博
	大 塚 内 科	大 塚 涉
	伊 奈 診 療 所	木 村 隆
	湯 川 医 院	湯 川 文 朗
	川 辺 医 院	川 辺 隆 道
	白 丸 診 療 所	新 山 壽
	大 森 医 院	大 森 栄 二



西多摩地域保健医療推進協議会開催さる

1. 実施期日 昭和63年9月19日午後1時
2. 実施場所 青梅市福祉センター
3. 協議結果
  - (1) 西多摩地域保健医療推進協議会要綱の一部改正について協議会を組織する行政側委員  
『西多摩地域広域行政圏協議会を代表する委員若干人』を『西多摩地域広域行政圏協議会を構成する市町村の長』に改める。
  - (2) 老人保健施設(羽村町博生園)の建設計画について  
老人保健施設の必要性は認める。

- 西多摩地域の老人保健施設のありかた(規模、対象地域又はサービス圏運営)といった見地から医師会で検討し、その結果を付し協議会の結論とする。
- (3) 大門診療所の改築計画について  
西多摩地域の救急医療体系といった観点から医師会で討議する。
- (4) その他  
西多摩地域医療機関連絡会の構成員が病院長並びに医師会長レベルとなっているが、これを副院長並びに医師会副会長レベルに改める。

## 西多摩地域保険医療推進協議会 (推進協) 雑感

西村 邦 康

推進協は従来からあった自治体との懇親また救急問題、地域医療計画等の協議の場であった西多摩地域医療問題懇談会を基盤にして、昨年青梅市立総合病院増床問題を契機として設置され、以後保健医療の問題はこの協議会で協議される事となった事は医師会報178、181号に掲載された通りである。今回の協議会は今年推進協の行政側構成メンバーに多くの変更があり、推進協に対する認識と理解が必ずしも充分とは言えず、議題が充分討議され、お互いの認識が深まり合意に達し閉会したとはいいがたい、その原因は保健、医療問題は公共性、社会性、個性、等複雑な要素によってその解決は一般的に困難であることにもよるが、基本的には自治体側に求められる意識の変革、即ち地域医療計画が策定され西多摩地域が二次医療圏となり個々の自治体が抱える保健、医療の問題は、同時に西多摩地域全体の問題でもあるという認識の欠如と、又各自治体の福祉行政の低調によるものと考えられる、

具体的には老健施設の問題で自治体側は同施設の高齢化社会での必要性を繰返し一般論で述べ、羽村町、西多摩地域の為是非必要な施設であり建設をサポートすると言った意見はなく、その機能の問題即ち要介護者の他施設(病院、ホーム)との連携は医師会側からの指摘にとどまり老健施設の地域での役割が明確にされずに終わった。

大門診療所の移転問題は大門診療所が私的救急告示診療所であるならばその移転改築に医師会が関与する必要はない、田辺市長は青梅市の一時救急は大門診療所であると大門診療所の地位を公的に位置づけて、二次三次の救急は青梅市立総合病院で行っており、青梅市の救急体制は整って市民の要望に充分応えていると述べている。青梅市立総合病院が二次救急医療機関であるといった認識の誤りがあるにせよ大門診療所が青梅市救急体制、西

多摩地域救急体制と整合性があるならば、この移転改築に異議を唱えることはない。しかし救急体制の見地から医師会内部にある一次救急告示診療所の民間委託の現時点での妥当性、必要性の疑問に市当局が明快に回答し青梅市医師会会員の理解を得る必要があるのではないかと。

今回の議題は全て自治体側の提案事項であった為自治体のお手並拝見といった感じが医師会側にあり、今までとは異なり事前に問題点の整理がなされなかった為に議論が深まらず一般論に終始して両者に後味の悪い思いが残ったものと思う。両者のギャップをうめる為西多摩地域広域行政圏を基に問題を考えるという考え方にも自治体の考えを考慮する即ち医師会は西多摩医師会と呼称するように西多摩レベルで物を考えるのは何等抵抗はなくむしろ当然と考えているが自治体は西多摩地域広域行政圏構成自治体と言っても各自治体が主権を持ち同時に複雑な利害が絡み簡単には西多摩レベルと言う発想にはなりがたいと言う自治体の現実に医師会が理解を示す必要があり、又老健施設の問題では羽村町医師会に事前に説明がなされた事、大門問題も同様に二月に問題が提起された事を顧みて、今後この様な事態に、速やかに対処する方法を考える必要がある。以上感じた所を2、3述べたが西多摩地域の保健医療の向上の為、今後益々自治体、医師会ともお互いに理解を深め推進協の充実を計っていきたい。



## 正副会長経験者と現執行部との懇談会

9月6日(火)福生市の幸楽園において、正副会長経験者と理事、監事との間で懇談会が行われた。これは西村会長が新会長に選出された際に発案され理事会の承認を受けて始められた会合である。永い期間執行部において活躍された諸先輩の貴重な経験談を伺い、同時に医師会運営の上での助言、提言をいただき、益々厳しくなりつつある環境の中で、難しい対応を迫られている医師会執行部に対し、より良き御指導をいただきたいということで始められたものである。幸いに、この会合についての評価は、医師会運営の上での幅広い話し合いが出来、又同時に親睦、理解が深められたということで好評であり、今期もこれを受けて諸先輩を御招待申し上げ、有意義な一夕を過ごさせていただいた。

当日は会長経験者である小泉、高水先生、又副会長経験者の坂本、山田、後藤、米山、内山先生が出席された。前期は会長経験者であられた故瀬戸岡進先生も出席され、率直で、しかも広い視野からの御意見もお伺いすることが出来たのであるが、今期は、そのお姿に接することが出来ず真に残念の極みである。ここに改めて哀悼の意を捧げるものである。

会は大塚副会長の司会で始まり、西村会長が挨拶に立たれた。「会長、副会長経験の諸

先輩の先生方には、今日この様に伝統ある西多摩医師会を築かれた。今宵はこの方々のお話をお伺い致し、これからの医師会運営に役立てたい。こんにち医師会の直面している問題としては税制問題、地域医療計画等がある。今後共、先生方より色々の点で御助言をいただきたい」。

続いて会長経験者を代表して小泉先生が挨拶された。先生は御高令のうえに更に心臓ペースメーカーを入れておられるが、会長をなさっていた頃と变りのない精悍な風貌と張りのある声で話された『皆さんと交流出来、良い意見が出る会が持たれて幸せである。税制問題について言えば、源泉徴収では未だに不合理な点が存在している。率直に意見を言って、改めさせるべき点は改めさせるようにした方がよい』。

次で、最近はお病気が怪我をなさり、体調を崩しておられたが、このところ健康の回復も著しい高水先生の乾杯の音頭で宴会に入った。各理事より自己紹介が行われ、続いて副会長経験の先生方から、私達がよく知らない“故き良き時代”の交遊録や苦勞話が語られ、又執行部に対する希望等が述べられた。午後10時近く、なお話が弾むなか、名残りを惜しみつつ散会した。 文責 大塚 栄二



## 理事会報告

唐橋理事

## 9月定例理事会

昭和63年9月8日(木) P.M. 7:30  
西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 林 理事  
湯川理事

## 1 報告事項

- (1) 国保レセプトの保険者(自治体)再チェックについて。 西村会長

西多摩医師会長名で各自治体に対し、この問題について照会した。自治体からは誠意のある返答がなされた。事務処理体制については、職員のみ。職員+パート。パートタイマーのみの、3体制に分かれるが、職員+パートが最も多くなっている。実施内容については、各市町村共に略、一致している。

- (2) 西多摩地区保健医療推進協議会(推進協)について 西村会長

次回開催の予定は9月19日である。

- 議題1) 西多摩地区保健医療推進協議会要綱の改正について

- 2) 老人保健施設の建設計画について

- 3) 大門診療所の改築計画について

- (3) 地区医師会地域医療計画にかゝる担当理事連絡会報告 林 理事

8月3日開催。内容については9月会報に掲載済み。

- (4) 地区医師会公衆衛生担当理事連絡会報告 林 理事

7月28日開催。議題については、インフルエンザ予防接種の問題であり9月会報に掲載済みであるが、インフルエンザ予防接種に関しては、昨年と同様に行う。当面その法律上の取扱いを変更することなく、予防接種の意義や効果について被接種者及び保護者に対して十分な理解を得るよう努力し特に問診を従来以上に注意深く行い、被接種者の健康状態に着目した被接種者及其の保護者の意向を記入する欄を問診票に設ける等により実施していく。

- (5) 地区医師会福祉担当理事連絡会報告

7月29日開催。議題は3点ある。

- 1) 医師年金に加入を。7月~9月が推進期間になっている  
2) 都医師共済組合に加入を。  
3) 医事紛争の問題。問題が起った場合には都医師会の方へ連絡願いたい。  
(6) 防災訓練説明会報告 唐橋理事  
地震防災訓練実施報告書を9月16日迄に出してもらいたい。

- (7) 休日準夜体制について 宮川理事

西部、南部地区については、うまく運営されているが、東部地区については、若干問題があり、3月迄は羽村3ヶ月、福生2ヶ月、瑞穂1ヶ月を受持って診療する。4月以降はよく検討して決定したい。

- (8) 学校医部委員会報告

7月19日開催。都立高校も学校医会に、入会して所属を明らかにしたい。心臓検診については、1次、2次があり、1次では全員に心電図検査を行う。異常者は判定委員会を経て2次、次いで指定専門病院へと送られる。 木村理事

7月27日耳鼻科の先生方との会合を持った。その会合席では、検診用紙を統一したいとか、又記入する病名については統一した方がよい。特に慢性咽頭炎とか治療を必要としない。扁桃肥大等については用紙に記載しないほうが望ましい。また、聴力テスト異常者には、ティンパノメトリーを施行したうえで耳鼻科受診等の事後措置を決めた方が参考になるとの意見も出された。 湯川理事

- (9) 広報部よりの報告 大嶽理事

TBSテレビ「そこが知りたい」10月11日放映される「病院が出来るまで」というテーマで制作される番組への出演交渉があった。

僻地での医療に取組む医師を希望しているので会長と相談し人選をしたい。

## 2 協議事項

- (1) 医道審議会答申について 西村会長  
山下文雄医師の所得税法違反について、

医道審議会に諮問を行ったが、8月18日医道審議会より「戒告」が適当であり附として西多摩医師会長宛の誓約書を提出させるとの答申を受けた。山下医師は9月5日付をもって本医師会を退会したが答申の出た段階では在籍していたので、答申通りに決定したい。 — 承認 —

(2) 保健所保健福祉サービス調整推進会議の設置について 林 理事

医療関係の医師については公衆衛生部に入選をまかせる。 — 承認 —

(3) 定款施行細則の見直し方法について  
定款施行細則検討委員会を作る。

理事会としては委員会に対しては資料提供をするに停どめ、どこを検討してもらいたいとの注文はつけない。人選については後日総務部を含めて検討するが、9人位がよい。 — 承認 —

(4) その他

1. 山田正哉先生から出された幼稚園の手当の問題は学校医部で討議する。  
— 承認 —

2. 青梅慶友病院の増床問題については、地域医療委員会に諮問する。  
— 承認 —

3. 休日準夜診療の問題については、4月からの体制等について休日診療委員会に諮問する。 — 承認 —

4. 加藤先生の都立高校眼科学校医の辞退後の処置については、各学校より医師会に対して推薦依頼の文書を出して貰う。東京都教育委員会にも同様のことを、連絡する。人選については学校医部で検討する。 — 承認 —

5. 推進協自治体側委員を9人にするよう自治体側は希望している。医師会側委員の増員の可否は総務部に一任する。  
— 承認 —

6. 大門診療所の移転改築については青梅医師会で充分討議してもらおう。  
— 承認 —

7. 梅郷診療所、小作皮膚科年会費決定  
— 承認 —

8. 東京青梅病院の開設者、管理者変更

に伴う入会金徴収の件 — 承認 —

9. 入退会会員 — 承認 —

## 医政連

### 報告事項

#### 1. 都議会議員推薦の件

水村一郎、丸山雄重、田村市郎の三氏を、都議会議員候補者として都医師政治連盟に推薦した。

#### 2. 自民党入党の件

来年の参院選には、東京選挙区候補者として原文兵衛氏。比例代表候補者として大浜方栄氏を都医政連に於ては推薦しているが、大浜氏の党内上位ランク付けのための党員獲得運動をお願いしたが、都医政連西多摩支部に於ては新規入党244名、継続70名、計314名で、獲得目標数317名にはほぼ達した。御協力を感謝致します。 松原副支部長

(総務部記)



## ◎学校医部より

学校医部委員に耳鼻科及び眼科の先生を増員

7月27日、耳鼻科の先生方と学校医部代表との間で学校の耳鼻科検診の問題点について話し合いがもたれました。このことについては会報の理事会報告に掲載されております。また、眼科検診については真鍋勉先生が、会報188号にその実態と対応について述べられております。

今後、学校保健における耳鼻科及び眼科に  
関する諸問題を学校医部としてとりあげる機  
会が多くなるかと思われます。そこで、そ  
れぞれの専門の先生方に学校医部委員に加わ  
っていただくことが必要と考え、理事会の承

認を経て、次の両先生方に学校医部委員に就  
任していただくことが決定いたしました。

耳鼻科：山田 登先生  
眼 科：真鍋 勉先生

文責 湯川文朗

☆☆

**文芸**

ス ペ イ ン に 学 ぶ

内 山 大

「ピレネーの南はアフリカだ」ヨーロッパ  
諸国は今だにスペインを指してこう蔑視して  
いるという。イスラムの影響を色濃く残し、  
戦乱と悪政に翻弄され続けた歴史のために、  
近代的合理主義から取り残され、或いは拒絶  
し続けたこの太陽と情熱の国スペイン・マド  
リッドから始まった私の今回の訪門の目的は、  
画題の蒐集にあったとはいえ、この不思議な  
国の生きた人間像に興味をもったことにある  
といっても過言ではない。

ツアーの一名としての駆け歩きの訪門では、  
そのほんの断片しかお目にかかれないことは  
解っていたが、その断片でさえ、まがいもな  
くエコノミックアニマル・ジャパニーズを始  
めとする先進物質文明万能諸国の、汚染され  
た人間像との相違点を、肌で感じるには、充  
分であったといえる。

数年前迄は、アフリカからの出稼ぎ労働者  
(通称ジプシー)の仕事を場であったパリが、  
例の爆弾事件以後、取締りが厳しくなって、  
ジプシー達は国外追放にあり、その殆んどが  
アフリカ迄戻らずに、スペインに留まったと  
いうことで、スペインの治安は、最近極端に  
悪くなり、置き引き、スリの類いはヨーロッ  
パ第一位ということで(添乗員による)、大  
切なものは、肌につけるよう成田を出る時か  
ら耳にタコが出来程、注意され続けたので  
あったが、私共の歩いた限りでは、プラド美  
術館界限も、一番危険な場所といわれるマヨ  
ール広場附近も、話し程ではないという感じ  
だった。それよりも、今どこの国でもヒッピ  
ーが盛り場には多いのだが、ご多分に洩れず

マヨール広場も正にヒッピーの溜り場になっ  
ていて、どうせ連中は、世の中の少しでも為  
になるう等ということは考える筈もなく、通  
り行く人々を眺め乍ら、何か悪いことでもし  
てやろうと、酒を飲んだりタバコを吸ったり  
しているに違いないのだが、そんなヒッピー  
達が、白い杖をついた盲人とか、障害者を見  
かけると、誰かれとなく立ち上って、手を貸  
し、その障害者達の行く方向へ送り届けて引  
き返してくるのだ。こういう風景を見ている  
と、彼等の心の奥底には、暖かい人間の血が  
今でも脈々として流れていて、物質文明に酔  
いしれている人々が、忘れかけている大切な  
ものを、依然として持ち続けているのだ、と  
いうことが、東方からの異国人の胸を強くう  
つたのであった。

スペイン 1 の近代都市マドリッドから南へ  
70 km、カスティリーヤの麦畑と、ヒナゲシ  
の咲く青い空の下を約1時間走ると、タホ河  
に囲まれた丘の上に、今でも中世そのままを  
残しているといわれるトレドの家並がある。  
グレコの最高傑作「オルガス伯の埋葬」のあ  
るサントメ教会、曲りくねった狭い石畳の路  
地を、右に左に、上ったり下ったり、正に引  
きずり廻され方角が全く解らなくなって、添  
乗員の姿を見失うまいと一生懸命ついて歩くと、  
よくしたもので、バスが待っている場所  
へ出るようになっている。ツアーの有難いと  
ころだ。

マラガからグラナダ迄の 180 軒のバスの旅  
は、周囲の素晴らしい田園風景によって、正  
にピカーの感激で、さすがアンダルシアとい



う感じだった。決して肥沃な土地でないという事は、作物がオリーブだけで、(勿論牧草地はあるが)麦畑も殆んど見当たらないということからも想像出来る。オリーブ島の中に、突如として聳り立つ岩山、点在する白壁の農家、五月始めだというのに、谷間に咲きほこっている夾竹桃、ミモザ等々。

こんな処に生れ育つたら誰だって世界的な画家になつて当り前だ、などとヒガミ感もこめて感嘆する田園風景ではあった。

そして、イスラム文化の名残り、過ぎ去ったアラブの栄光 — 千夜一夜物語 — の舞台が実感出来るグラナダ。そのアルハンブラ宮殿 — イスラム芸術の粋を集めたアラベスク模様の建造物、ただただ驚嘆のみの緻密さである。シエラ・ネバダの清涼な水を引き、水の宮殿の異名を持つこのアルハンブラ宮殿は、到る処で水の音が聞えるように出来ている。波びゆく運命のすすり泣きのごとくに。こんな感傷にひたりながらも、目を眼前の岡(サクロモンテ)に移すと、そこは又不思議や不思議、岡の中腹に横穴がいくつも堀られていて、さながら戦時中の防空壕のようである。説明によると、ジプシーの住居で、政府が、衛生上の問題もあるしという事で住宅を建てて、出て来るようにいくら説得しても、注意しても頑として動かないそうである。穴ぐら生活の快適(?)さと、日本の兎小屋と、どちらが住みよいか、ジプシーの諸君に聞いてみたいものだ。

グラナダからバルセロナ迄の飛行機の旅は、凶らずもスペイン人の時間に対する無頓着さ、ルーズさを私達にいやという程知らしめるに充分であった。夕刻の便でバルセロナに向う予定が、出発時刻一時間以上前に、空港に到着した一行は、待てど暮せど出発予定時刻を知らせる掲示板にランプが点かない。空港を見渡してもジェット機は一機もないし、出発予定時刻を大分過ぎたので、添乗員に確かめて貰った処、折り返し便だから、向うから着いてみないと何時出るか解らないとの事、それでも何時かは出発出来るだろうと観念して待つこと数時間、のんびり屋の仲間達もすっかりシビレを切らした頃、添乗員から集合

がかかり、ヤレヤレと思ったのも束の間、何とその日はもう航空便は取り止めとの事、何のことはない、エンジントラブルで、この小さな空港では整備不能のため、整備出来る前日のマラガの空港へ行つてしまつたというはなし。昨日来る180斤のマラガ迄戻らなければ、今夜中には、バルセロナへ行けないという破目。(因みに列車だと、急行で12時間位かかる)。多忙なアニマル小生にとっては、若し日本に帰る日が一日遅れたら……なんて考えると、矢張り貧乏人の来る処ではなかった、なんて来たことを悔んでみたり、まあ飛行機が落ちたより生きてさえ帰ればましき、なんて慰さめてみたりしていると、おお神よ何と昨日からのバスの運ちゃんが、どういう訳か未だその辺に遊んでいてくれたのである。

お蔭で、急拠その運ちゃんに交渉して、昨日の180斤を引き返すことになり、売店のサンドイッチ等全部添乗員が買い占めて、(ここでも他の外人達から大分白い眼で見られた)バスに乗り11時頃 不定期の便で無事バルセロナのホテルに辿り着いた。既に真夜中を廻っていた。

スペインでは、時間に追われて、めくじら立てて働らきつけ、走り回る日本の感覚を捨てない限り、やたらにイライラするばかりで、体に良くないようだ。この前時代的な悠長なヨーロッパの一国に、驚ろきを通り越して敬意を表しなくなった。機械文明に反抗しているとしか思えないこの牧歌的な、太陽の国でも、ソウルの次のオリンピック開催は、既にバルセロナと決まるとかで、街頭のあちこちに、それらしき広告が目立った。だが、この国のこと、国をあげてのオリンピック騒ぎなんて、到底考えられないのではないか。そのオリンピックのメインスタジアム建設の主設計者が、何と日本人だという話したが、それが又いかにもこの国らしく、アニマル日本との好対称に思えた。島国根性の日本人は、経済大国で、国際社会で重要な位置を占める現在でも、昔ながらの鎖国的、排他的な頭脳は、なかなかおいそれとは変えられないようだ。

コロンブスが、東方の黄金の国を目指して

旅に出たのが、このバルセロナ。そこにはまた、とてつもなく狂気じみた建造物、グエル公園、聖家族教会など、若くして不運な事故死を遂げた天才建築家ガウディの、百年以上も前の作品群が、異国人の目をひく。

完成までに後数百年はかかるだろうという聖家族教会。何としても気が遠くなるような話のだが、ヨーロッパ的にみれば、他の有名な教会でも数世紀に亘って建造されたという例はあるので、気短かな日本人の感覚ではちょっと戸惑うだけで、向うの人達はそれで平気でいられるのだろう。人間の未来を信じるというのか、のんびり屋集団だからというのか、何れにしても大陸的なだろう。

スペインという国は不思議な国だ。スペイン人にとって、スペインという国家は一つである必要はないという。現実には、中央から独立して自治権(?)を持つているカタルーニャ地方のように、歴史的にも中央集権化を嫌う民族性があるのかも知れないが、根底には矢張り個(自分)を大切にす風潮があるた

めだろう。自分を大切にすとは、自己を主張することに他ならない。思い切り自己を主張し、現実を肯定する。こだわらない陽気さ故に出来る彼等の人生観なのだろう。酒を飲み、陽気にハジャギ、明日のパンのこと等全く気にしない。キリスト教精神をよく守っている人達のような。神は、働らかなくても日常の糧は恵んで下さるという考えが、まさか置引きや、すりや、ひったくりにまで解釈が及ぼうとは、この東洋の小島国、警察国家ジャパン育ちの小心者には、考えの及ばない飛躍であった。神の恵みとは、我々の想像をはるかに超えているのだ。

日本人旅行者が、彼等によって御光がさして見えるなんてことのないように、せめて同じ貧しき小羊であるように、人間の在り方を考えさせてくれる国。わずか数日間の滞在にもかかわらず、多くの事で頭が混乱してくる多様性を秘めた国スペイン。

そこが、限りなく魅力的なのかも知れない。

## 是 空

平 林 信 隆

秋川市の医師会では毎月集会をもって、いろいろ打合せしたり、また順番に当番になり勉強会をひらく事になっている。老骨の身には耳学問は何より有難いが、むずかしくてまた新しい学問には、ヘエーッとなる事が多い。

今春私の当番の予定で何にしようかとテーマを考えていたところ、ある本でペロポネソス戦史をかいたツキジデスの「今后展開する歴史も、人間性の導くところ、再びかつての如く、それと相似た過程を辿るであろう」と云う言葉をみてやっとテーマが決った。余り感心した話ではないが、この数十年來耳にした立派な地位にあるドクターや学者の脱線的话题に決めた。

ある大学の精神科の教授、ご自分が治療中の若い娘の様な女性と関係が続け、外遊期間が幸して一方的に関係が切れて了つた。その

后その娘さんの治療を私の知り合が引受けたりらしい。

又、ある大学の医学部の教授、教室の女子事務員に強引千万に関係をせまり、それが原因かどうか分らないが、海外出張中留守宅に以後出勤に及ばずの内容証明でクビになった。又、講演に著作で大活躍の若手流行児の大学教授、講演などの謝礼を手にする、帰宅途中に主婦売春に走り、これが唯一のたのしみとなっているとか。又、内科開業医、腕も筆もたつ御仁、夫婦でよくスポーツをたのしみ円満な家庭だが、自分のクリニックの勤務者に手を出し記念?のためか高級装飾品を買い与える。一人だけでなく別の勤務者にも手を出し同様の品を買い与える。そこで同じ品をもらった二人がそれに気付き、アラマーと云う事になる。

又、大病院のある科の部長、不幸な事に夫婦に子供がない。場末の神の恵みのすくない飲み屋の女性に自分の子を産んでくれと、ビスケースに通いつめたとか。

こんな話も何ら奇もなく大昔から続いている事で「人間性の導くところ」人の世にはありふれた事であろう。ツキジデスが出て来たので参考書をひっぱり出して、ヘロドトスから読み返してみた。

ヘロドトスの書いたペルシヤ戦争は BC 500 年位にペルシヤとギリシヤとの間に生じた戦争で 50 年位続き、前後三回の戦争があった。

第一回 ペルシヤのダリウス一世がギリシヤの北の地トラキアに侵入したが、海軍が暴風により没滅してギリシヤ本土に入れずに終わった。

第二回 マラトンの戦、ペルシヤ軍アテネに迫るもギリシヤ軍はペルシヤ軍を水際に迫りつめて大勝する。ペルシヤ軍死者 6,000、ギリシヤ軍死者 192。その 192 人を葬った塚が現存している由。写真でみると秋川市内の大塚程度の大きさの様である。

第三回 侵入したペルシヤ軍にアテネは蹂躪され、ギリシヤのスパルタ王はテルモピレの戦で戦死する。惨敗である。ギリシヤ側は婦女子、老人を他の地に疎開させ男子と云う男子は数百艘の軍船にのりこんだ。アテネの賢明な指導者が、かねて大量の軍船を作らせていたのだった。結局サラミスの海戦で勝利を得た。ダリウス一世の子セルクセスは本国に逃げ帰った。翌年陸戦でもギリシヤ側はプラタイアの戦で勝った。

漸く長年の戦乱はこれで終わった。

50 年后に 30 年間も続くペロポネソス戦争 (BC 431 - 404) が起った。

アテネは自由通商の国で奴隷は家内労働が主であり、スパルタはしめつけの国で奴隷も生産力として使用されていた。両国ともそれぞれ同盟国があり、アテネを盟主とするデロス同盟とスパルタを盟主とするペロポネソス同盟があった。両国とも同盟国同志の紛争から応援をたのまれたのだった。悲惨な長期戦を予期していたアテネの指導者たちは十数日間激論をかわし、結局参戦にふみ切った。両

同盟とも 30 年に及ぶ戦乱で疲弊して、ギリシヤ北方の蕃地と目されていたマケドニアが強大となり、アレクサンダーが空前の大帝国を築くに至った。今はアレクサンドリアの名が残るだけである。

ツキジデスの言葉はペロポネソス戦争の歴史に出た言であるが、相対する二つの勢力が競う状態は紀元前からずっと現代まで続いている訳である。

大分昔、米ソが国の威信をかけて宇宙開発競争に鎗をけずっていた時代に米国でこんなジョークが生れたという。ソ連からアメリカにコンドーム「大」の注文があった。アメリカは大のコンドームに「中」のスタンプを押して輸出したという話し。オレの方が大きいぞという所がミソらしい。近頃は又ソ連のこんなジョークを何かの本でみた。西側に旅行した人に近隣の人が様子をきいたら「店という店は何も売ってない。その証拠に行列が全くなかった」という話し。いずれも些か低級のお話だが競い合っている空気があるといういろいろの表現が生じてくる。そしていつか双方とも疲弊してまた新たな勢力が出現して同じことをくりかえす。

もう一度、ツキジデスの言。

「今后展開する歴史も、人間性の導くところ、再びかつての如く、それと相似た過程を迎るであろう」

以上の様な事を喋って当番の責任をはたした次第である。

数年来日本でギボンのローマ史が売れたらしい。この一年米国でポール・ケネディの「大国の興隆と凋落」がよく売れたとの事。いろいろ感慨を深くした人々も多かった事であろう。

(63 年 8 月)



## 市町村医師会紹介シリーズ

## 瑞穂町医師会

横浜より北に一路平坦な広がりを見せる主都圏を環状に股いて伸びる国道16号線。塩山より東へ山合いを溪谷沿いにくねって伸びる青梅街道。この新旧の街道の交わるところに吾が瑞穂町がある。片や名所旧跡を点々と連ねた歴史を秘めた古い街道。片や日本経済の高度成長を支えてきた幹線道路。これは対比するに、まことに興味深いものがあります。

瑞穂町は狭山丘陵の最西端部に位置し、豊かな水と緑の自然環境に恵まれ、故き良き時代の人情、習慣と共に、古くは鎌倉時代の村山党の根拠地として、又江戸時代の宿駅として栄えた風土を今に残しております。

昭和41年、この町に移り住んできましたが、現在の眼でみると住環境としては必ずしも良いものではありませんでしたが、町当局の町づくり構想が進むにつれて又同時に横田基地の飛行騒音に対する自治体住民の運動、八高線の増発等と、相俟つて現在では人口29,000人、着実に心のふれあう町づくりが行われております。

町の紹介が長くなりましたが、瑞穂町医師会を知っていただくためには、その人達が生れ育ち又永く生活した風土を知っていただくことが是非とも必要と考え、貴重な紙面を割かせていただきました。内野正作先生、高水武夫先生、栗原三省先生、どの方にも共通な点は、その風貌といい、物の考え<sup>オイシ</sup>方といい、すべてに鷹揚であり、言うならば大人の風格をお持ちになっている。これも或程度隔絶されている島国的な面もある瑞穂という義理人情に厚く、争うことを好まない土地柄のせいではなからうかと思っております。

さて瑞穂町医師会の現況について申し述べますと、加入医療機関数7(うち病院1)会員数9名であります。会長は小林康光先生が務めておられます。最高令者は内野正作先生の81才、矍鑠として日常診療に励んでおられます。若年者の筆頭は高沢勲先生の38才であり、その平均年齢は約59才であります。昨年最長老であられた荻野義一先生が、亡くなら

れ、今年も最年少者であられた小川隆先生を失っております。改めて心より御冥福をお祈り申し上げる次第です。病院は小川病院(高沢勤院長)だけですが(この会報が出た頃には高沢病院に変更されていると思います)他に1ヶ所医師会に未加入の病院があります。

診療所は6ヶ所、内科、外科、小児科、婦人科については、地域住民の要望に応えられる体制にあります。眼科、耳鼻科の診療所開設が待たれるところです。元西多摩医師会長である高水武夫先生は開設者を子息の松夫先生に譲られましたが、最近では病氣勝ちであったとはいえ元気で診療にあたっておられることは、会員として真に喜ばしいことあります。先生が常に口にしておられる“人の和”こそ私達が地域社会の中で生活し仕事をしていくうえでの規範となるものでありましょう。私達会員は、このことを会員相互の交遊のうえにおいても、心懸けておりますので、他のどこの医師会からも羨ましがられている瑞穂町医師会の団結の強さは、この辺りから来ているのではないかと考えております。

近年医療に対する考え方(学問的にも経済的にも)が、治療から予防へと移りつつありますが、それに伴い自治体と係り合う保健衛生事業が、目にみえて増加してきております。私達は小人数の医師会でありますので、フルに活動してこれに対応しております。

事業を始めるにあたっては、事前に充分な話し合いを行い互に理解が深められた段階での協調ということに心懸けております。即ち、年度始めの5月には保健衛生事業全般に亘る1年間のスケジュール議案について、又7月には、成人病基本健康診査の資料についての、検討会を行っています。これには町長、助役も出席しております。更に年度末3月には、町当局主催の瑞穂町医師会、歯科医師会合同の、保健衛生事業、学校保健事業、健康保険事業等を話し合う懇親会が持たれており過年度行われた事業についての反省、次年度への抱負等について率直な意見の交換が行われており町当局、医師会共に地域住民の要望に応えるべく真剣に取り組んでおります。

保健所の事業についても健診には順番で出勤し又各種協議会にも委員が出席しております。

以上瑞穂町医師会について日常の仕事の一面を、おおまかに述べましたが、時には夫人同伴の旅行をしたり、近くの寿司屋に集って飲んだり、会内での親睦も計っております。

内野正作先生は、絵画観賞。栗原三省先生は柔道、囲碁。小林康光先生は囲碁、園芸。波田野洋夫先生は油絵。高水松夫先生はゴルフとビリヤードと幅広く趣味を持っている先生方が多い様です。

長々と書いてきましたが拙筆で思い通りの文章が書けず歯がゆい思いを致しております。どうか御容赦下さい。 大嶽 栄二

「百舌の高鳴き」 小泉 新策

もづ高鳴く 秋の気配のすがすがし  
天高けれど 肥ゆるに 馬なし

お月見の膳に供うる 花をとて  
採りに 遣られし 昔懐かし

四年ごと 催すことの 一六二国 集ひて始まる  
今年には ソウルに

ビルマ観れば あの善良な 農民の  
蜂起の様の 凄まじきこと

彼の生活の様が古ゆ 故郷の  
生は我が 遺れる処よ

我にして斯くある時(事変)の無きことを  
願う心の無駄(仇事)であれかくし

リクルートの真相まこと不明解なり  
泣いて 馬謖の切れぬ 暗黒界か

真相の極まるをまつ 余裕の世代  
金解禁の時機とは 違えど

正すべきを 訊して後の 打つ手あらん  
不公平 是正も 眞剣になしてな

訃 報

大久野病院  
進藤利定先生



明治 31 年 3 月 1 日生 享年 90 才

病院 日の出町大久野 6416  
自宅 青梅市青梅 96

昭和 63 年 9 月 5 日 午前 2 時 00 分  
糖尿病により急性呼吸不全のため逝去されました。  
告別式は 9 月 15 日 午後 2 時 より 立川柏町  
「つくば斎場」に於て執り行なわれました。  
謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

哀悼

この方、二十四歳の師範生の母となり先づ  
 平河の在りて定見も他地界を築きた  
 先生は明治卅五年十月に北海道札幌市  
 江別町野幌に生れにたりし。同地にて  
 五年間月恩賜斯團益更全医学部門  
 卒業(学勉)字を以て卒業後は東支  
 青島大の医学部三浦内科にて副手と  
 入る。内科字と所帯を以て四年間勉学  
 の後、大正四年十月小樽市の鎌倉外  
 科病院に招聘され内科担任に任ぜし  
 外科字と専攻を以て勤勞を以てつれ  
 昭和四年九月十日午後九時、青島  
 市青島第六十六番地に於て「急蘇外科」  
 開設を盛況と稱する人々を以てし。  
 支那事考知初より多すと、昭和十三年  
 七月一、日軍永中支派進軍の部隊付  
 軍進出に招かれ、以て中支代表南支  
 駐紮に於て八年有餘と従軍を以てし  
 昭和廿九年八月、長生位勳章を以て  
 授けられた。

先生の大妻月、昭和六年、あ  
 りて、先生會の幹事として、今所の状況と  
 李蘇子、又青島市医師會を創設し  
 會長に推され、又青色中學校の開始も  
 ありし。九十先く活動、會長に就任し

先生は、昭和三十八年、口ローター、娯楽部、會長  
 に推され、又日清調査委員にも推任され  
 昭和三十八年、日清調査委員に推任され  
 昭和三十八年、日清調査委員に推任され  
 昭和三十八年、日清調査委員に推任され  
 昭和三十八年、日清調査委員に推任され



先生、昭和三十八年九月十五日、同室葬、小泉新榮  
 氏、先生、昭和三十八年九月十五日、同室葬、小泉新榮

## お知らせ

生涯教育の一環としてビデオテープライブラリーをご利用下さい。  
医師会事務室に揃えてあります。貸出し期間は1週間です。

第22回 日本医学会総会記念  
生涯教育シリーズ

番号	内 容	種 類
No.1	1. エイズ情報 2. がんの温熱療法 3. 切らずに治す腎臓結石 4. 救急医療(その1) Ⅰ. 気道の確保 Ⅱ. 人工呼吸 Ⅲ. 心臓マッサージ	VHS・β
No.2	(第22回日本医学会総会特集) 1. 開会式 2. エイズの診断 3. 老人性痴呆 4. がんの化学療法 5. 今後の医学・医療への期待(柳田邦男氏)	"
No.3	1. B型肝炎 2. 胃がん 3. リウマチ 4. 救急医療(その2) — 外傷・止血 — 5. 医の心(曾野綾子)	"
No.4	1. エイズ研究会 2. 花粉症の予防的治療 3. 胃潰瘍の治療 4. 超音波診断(肝臓病) 5. 救急医療(その3) — やけど — 6. 医の心(加藤一郎)	"
No.5	1. 肺癌の早期診断と最新治療 2. 狭心症の効果的治療 3. 骨粗鬆の診断法 4. リウマチの新しい薬 — 寛解導入剤の使い方 — 5. 医の心(井深大)	"
	1. B型慢性肝炎・新しい治療法 2. 動脈硬化 — 高脂血症の治療 3. 心臓の超音波診断の最前線 4. 救急医療 — 骨折 — 5. 医の心〜医師はいつもユーモアを(アルフォンス・デーケン)	"

## 第一製薬寄贈

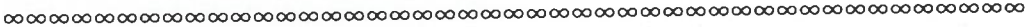
## 目でみるメディカル・ダイジェストシリーズ

番号	内 容	種 類
No.1	高脂血症の新しい治療	βのみ
No.2	脳とその微小循環	"
No.3	血小板、動脈硬化と血栓症	"
No.4	経口抗菌剤最近の話題	"
No.5	動脈硬化治療の新しい考え方	"
No.6	胃炎・胃潰瘍と胃粘膜血流 — 病状に応じた薬物療法 —	"
No.7	新しい老年者 高血圧治療のポイント	"
No.8	高脂質血症と動脈硬化症治療	"
No.9	感染症の治療 最近の話題	"
No.10	実地診療における高脂血症の治療	"
No.11	B型肝炎の消える日まで	"
No.12	抗血小板薬の臨床 — 脳梗塞の予防 —	"

会員通知

- 都市町村職員共済組合の組合員証等の検認について
- 東京都医師会職員と称し病院等への電話連絡について
- 国家公務員共済組合、地方公務員等共済組合及び日本鉄道共済組合の組合員証等の検認について

- 公害医療機関の診療報酬の請求に関する総理府の一部改正について
- 青梅市立総合病院 9 月分宿日直表
- " " C P C 開催案内
- 学術講演会開催案内
- ドライブ会開催案内



あ と が き

外人が東京見物をする時、かならず秋葉原電機街買物コースと東京ディズニーランドコースが入っているとされる。我家にも小3と中1の女の子がいるので年に一度はディズニーランド巡りを行うのを常としている。以前は夏休み期間中に行っていたがどうも夏休みには東京の親類に地方から遊びに来た子供達が親類一同ディズニーランド巡りをするので夏休み中超満員、各施設1~2時間待ちはざらでありその事に気付いてからはこの2年9月15日に決めている。

今年は台風18号が千葉県を直撃する予報で

あったので行くかどうか迷ったがこの時ほど人出はないと判断し予定通り決行した。予想通り各施設待ち時間はほとんどなくいままで、人出が多く入る事が出来なかった所も見る事が出来た。台風は風雨もなく子供達も来年も台風の時にディズニーランドへ行こうとまで言っている。

最近子供の遊びもディズニーランドや昭和記念公園の大プールと言った巨大資本を投入した本格的な施設の人気が高く素朴な遊びはだれもやっていない。子供の遊びが大きく変わる事により日本の文化が大きく変わっていく事だろう。

渡辺 良友

お 知 ら せ

( 6 3 年 1 1 月 の 保 険 提 出 日 )

1 1 月 8 日 ( 火 )

— 正 午 迄 —

昭和63年10月1日発行

発行所 (社)西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103  
TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 大嶽栄二

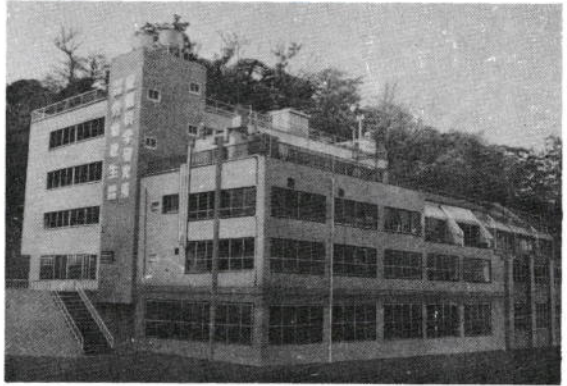
石井好明 栗原琢磨 小林杏一  
真鍋 勉 道又正達 百瀬眞一郎  
横田 博 渡辺良友

印刷所 マスタ印刷 TEL (0428)22-3047



## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106  
電話 045 (333) 1661 (大代表)  
八王子市子安町3-17  
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
  - 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
  - 関係医療機関 約 3,500ヶ所
  - 広範囲な検査内容
    - 内分沁学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
    - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査
- ― 都川県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



# 埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)  
東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)  
青梅支店  
奥多摩特別出張所 (TEL 0428-83-2515)

福生支店 (TEL 0425-51-1021)  
村山支店 (TEL 0425-61-1211)  
五日市支店 (TEL 0425-95-1311)  
河辺支店 (TEL 0428-24-2401)  
秋川支店 (TEL 0425-58-2611)